

年表（当財団活動実績<平成5～25年度>）

	平成5年度(1993年度)	平成6年度(1994年度)
I 健康問題		
調査研究	「大都会における在宅老人ケアの可能性に関する研究Ⅰ」全国社会福祉協議会受託研究	①「効果的な在宅介護サービスの安定的供給に関する調査研究」SS振興会に協力 ②「大都会における在宅老人ケアの可能性に関する研究Ⅱ」全国福祉協議会受託研究
地域フィールド活動	①横浜市港北区:医療機関と連携した地域ケアシステム調査研究・三菱重工業大倉山病院との情報交換(6月) ②東京都町田市:市民参加型地域ケアシステムの調査研究・研究会準備(10月)	①横浜市:＊連絡事務所開設・閉鎖＊重工大倉山病院との共同研究の延期＊「在宅サービス研究会」スタート(H7年1月) ②町田市:「在宅ケアのあり方研究会」発足(10月)
II 経済問題		
調査研究	実施せず	実施せず
III 生きがい問題		
リサーチモニター制度	なし	①高齢社会リサーチモニター制度発足(6月) ②連絡会議(7月)講演「一步踏み出す勇氣」渡邊一雄氏 ③交流会(12月)
IV サービス提供事業		
在宅介護サービス	要介護者数延194人・訪問回数延1,620回・時間数延8,584時間・月平均要介護者数1.6人・月平均担当ヘルパー25.8人・月平均1要介護者当たり介護回数8.4回・時間数44.2時間	要介護者数延237人・訪問回数延1,895回・時間数延9,900時間・月平均要介護者数19.8人・月平均担当ヘルパー24.8人・月平均1要介護者当たり介護回数8.0回・時間数42.0時間
介護教室	男性総合セミナー「男の介護コース」かながわ女性センターから受託(10月)	なし
V 国際交流・学会活動		
国際交流	シルバーサービス振興会主催「欧州調査団」(9月)、「米国調査団」(10月)に参加	(株)服部メディカル研究所主催「米国調査団」に参加(4月)
VI 意識啓発・成果の普及		
研究報告書	「大都会における在宅老人ケアの可能性に関する研究Ⅰ」(H6年3月)	①「効率的な在宅介護サービスの安定的供給に関する調査研究」(H7年3月) ②「大都会における在宅老人ケアの可能性に関する研究Ⅱ」(H7年3月)
講演会開催	なし	①「高齢社会に取り組む民間企業の意義と役割」行天良雄、横尾和子、樋口恵子、堀田力、鈴木永二氏 ②「期待されるシルバービジネス」河幹夫、三和護氏(H7年2月)
SS展	「高齢社会における個人・行政・民間企業の役割分担に関する意識調査」	「高齢者介護と民間在宅介護サービスの意識調査」
財団新書	なし	1.「高齢社会に取り組む民間企業の意義と役割-設立1周年記念講演会」
その他	三菱29社の高齢社会に関する基礎調査(8～12月)	「MONTHLY MITUBISHI」に「設立1周年記念講演会」開催通知記事(7月)

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤモンド」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成7年度(1995年度)
--	---------------

I 健康問題

調査研究	①「在宅介護サービスの類型化とその安定的供給に関する調査研究」シルバーサービス振興会に協力 ②「大都会における在宅老人ケアの可能性に関する研究」厚生省・老人保健健康増進等補助事業
ワールド活動	①横浜市:「在宅サービス研究会」が「在宅保健医療福祉ガイドブック」を刊行(H8年1月) ②町田市:「在宅ケアのあり方研究会」が「長寿くらしの案内版」を刊行(9月)

II 経済問題

調査研究	なし
研究会	「介護関連サービス開発研究会」田中滋教授主宰18社参加4回実施 ※FS研と共同研究(6~12月)

III 生きがい問題

調査研究	①「情報ネットワークによる企業退職者コミュニティの形成・運営モデル事業」長寿社会開発センター助成研究 ②「レクリエーション活動による初期高齢者の生きがい健康づくり支援事業」長寿社会開発センター助成事業
リサーチモニター制度	①連絡会議(7月)講演「人生は定年から面白い」大島清氏 ②交流会(11月) ③「モニターズヴォイスI」(7月) ④「企業退職高齢者の生活と生きがいに関する調査研究」(10月)

IV サービス提供事業

在宅介護サービス	要介護者数延206人・訪問回数延1,700回・時間数延9,100時間・月平均要介護者数17.2人・月平均担当ヘルパー19.6人・月平均1要介護者当たり介護回数8.2回・時間数45.2時間
ヘルパー	シルバーサービス振興会主催「在宅介護サービス事業従事者研修会」受託(11月)
介護教室	①「福祉介護教室」市川市教育委員会から受託(5月) ②「男性のための介護入門コース」かながわ女性センターから受託(12月)

V 国際交流・学会活動

国際交流	①米国ボランティア事情について調査(5月) ②シルバーサービス振興会主催「米国調査団」に参加(10月)
学会活動	なし

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	①「企業退職者の生活と生きがいに関する調査研究」(10月) ②「在宅介護サービスの類型化とその安定的供給に関する調査研究」(H8年3月)
講演会開催	①「高齢社会へのテクノロジーの応用」舟久保熙康氏(5回) ②「期待されるシルバービジネスパートII」土肥健純、熊谷公明、坂本鐵司氏(7月) ③「期待されるシルバーサービスパートIII」齋藤正男、関成孝、池田喜一氏(H8年3月)
SS展	「生きがいに関する意識調査」
財団新書	2.「期待されるシルバービジネス」 3.「モニターズヴォイスI」 4.「期待されるシルバービジネスパートII」
その他	三菱広報委員会主催「快適なくらしと健康をひらく」に参加、「高齢者疑似体験」を実施(H8年1~4月)

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成8年度(1996年度)
--	---------------

I 健康問題

調査研究	「大都会における虚弱高齢者へのサポートサービスに関する研究」厚生省・老人保健健康増進等補助事業 *町田市に町田研究分室を開設、専任スタッフ配置(12月)
フィールド活動	①横浜市:「在宅サービス研究会」終了(H9年3月) ②町田市:「在宅ケアのあり方研究会」終了、「活動報告書」を刊行(H9年1月) ③「ケアマネジメント研究プロジェクト」発足

II 経済問題

調査研究	「高齢保健福祉分野への民間企業資源活用のあり方に関する調査研究」長寿社会開発センター委託事業
研究会	なし

III 生きがい問題

調査研究	①「情報ネットワークによる企業退職者コミュニティの形成・運営モデル事業」長寿社会開発センター助成研究 *「熟年からのいきいきパソコン人生」発刊(9月) ②「レクリエーション活動による初期高齢者の生きがい健康づくり支援事業」長寿社会開発センター助成事業
リサーチモニター	①連絡会議「高齢社会における男性に期待すること」樋口恵子氏 ②交流会(11月) ③「モニターズヴォイス2」(11月) ④「企業退職者の生活上の出来事とその対処に関する調査研究」(H9年3月)

IV サービス提供事業

在宅介護サービス	要介護者数延140人・訪問回数延1,183回・時間数延6,588時間・月平均要介護者数11.7人・月平均担当ヘルパー17.3人・月平均1要介護者当たり介護回数8.5回・時間数47.2時間
ヘルパー	①戸田市社会福祉協議会「ホームヘルパー養成研修」受託(6月) ②東京都福祉人材開発センター「ホームヘルパー施設介護職員養成講習」受託(7~8月)
介護教室	東京都福祉厚生事業団主催「介護技術実践講座」受託(7~12月)

V 国際交流・学会活動

国際交流	米国ロングタームケア研修と国際介護機器展見学(11月)
学会活動	日本老年社会科学会(10月岡山)

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	①「大都会における在宅老人ケアの可能性に関する研究」-在宅高齢者の暮らしの出来事調査-(10月) ②「情報ネットワークによる企業退職者コミュニティの形成・運営モデル事業」(H9年3月) ③「レクリエーション活動による初期高齢者の生きがい健康づくり支援事業」(H9年3月) ④「地域における社会資源活用の高齢者保健福祉システム調査研究」のうち<第3章 企業グループ調査>を当財団が担当(H9年3月) ⑤「企業退職者の生活上の出来事とその対処に関する調査研究」リサーチモニター調査(H9年3月)
講演会	「中高年の生きがいづくりシンポジウム」加藤仁、瀬沼克彰氏(12月)
SS展	「老いに関する理解度テスト」
財団新書	5.「高齢社会へのテクノロジー応用」 6.「期待されるシルバービジネスパートⅢ」 7.「モニターズヴォイス2」 8.「中高年の生きがいづくり」
その他	なし

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成9年度(1997年度)
--	---------------

I 健康問題

調査研究	①「後期高齢者の生活自立に関する調査研究事業」厚生省・老人保健健康増進等補助事業 ②「在宅介護サービス機関の有機的連携に関する実証的研究事業」社会福祉・医療事業団助成研究 ③「在宅サービスの利用を規定する要因に関する研究」長寿科学総合研究事業 ④「過疎地域等在宅福祉サービスモデル事業」千葉県高齢化施策推進課(厚生省老人保健福祉局老人福祉振興課)受託調査研究
フィールド	町田市:市内介護サービス事業者13社による「民間ケア・ネットワーク研究会」を設置(4月) *毎月の定例研究会を開催

II 経済問題

調査研究	「高齢保健福祉分野への民間企業資源活用のあり方に関する調査研究」長寿社会開発センター委託事業
------	--

III 生きがい問題

調査研究	①H8年度研究の成果を受けて実践的調査研究としてパソコン通信「ダイヤネットワーク」を試行 ②「市民団体ネットワーク化三世代交流活動による高齢者の生きがい健康づくり事業」長寿社会開発センター助成事業 ③「企業退職高齢者の社会的ネットワークに関する研究」長寿科学総合研究事業
モニター	①連絡会議(7月)講演「快老術-社会に役立つ生き方」斎藤茂太氏 ②交流会(11月) ③「モニターズヴォイス3」(11月)

IV サービス提供事業

在宅介護サービス	要介護者数延75人・訪問回数延651回・時間数延3,665時間・月平均要介護者数8.3人・月平均担当ヘルパー11.8人・月平均1要介護者当たり介護回数8.7回・時間数49時間 ※業務を(株)ローズ在宅ケアサービス、(株)ダイヤライフに移管(12月末)
ヘルパー	荒川区福祉公社「ホームヘルパー養成講習」受託(8~9月)
介護教室	東京都福利厚生事業団「介護技術実践講座」受託(8~11月)

V 国際交流・学会活動

国際交流	第16回国際老年学会発表(8月オーストラリア)
学会活動	日本老年社会学会(6月東京)

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	①「大都会における虚弱高齢者へのサポートサービスに関する研究」(6月) ②「在宅介護サービス機関の有機的連携に関する実証的研究事業」(H10年3月) ③「市民ネットワーク化三世代交流活動による高齢者の生きがい健康づくり事業」(H10年3月) ④「高齢保健福祉分野への民間企業資源活用のあり方に関する調査研究」(H10年3月) ⑤「在宅サービスの利用を規定する要因に関する研究」(H10年3月) ⑥「企業退職高齢者の社会的ネットワークに関する研究」(H10年3月) ⑦「民間在宅福祉サービスの導入条件等に関する調査」〈過疎地域等在宅保健福祉サービス推進モデル事業・夷隅サブ老人保健福祉圏〉(H10年3月) ⑧「同上調査」〈同上・安房老人保健福祉圏〉(H10年3月)
講演会開催	①「55歳からの生活設計セミナー」東瀧邦次、赤堀勝彦氏(6月) ②「中高年の生きがいづくりパートII」井上勝也、瀬沼克彰氏(12月)
SS展	「ケアサービスの値段」
財団新書	9.「モニターズヴォイス3」 10.「中高年の生きがいづくりパートII」
その他	なし

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成10年度(1998年度)
--	----------------

I 健康問題

調査研究	①「在宅介護サービス機関の有機的連携に関する実証的研究事業」社会福祉・医療事業団助成研究
	②「在宅療養を推進する在宅介護サービス手法に関する調査研究事業」厚生省・老人保健事業推進費等補助金
	③「虚弱高齢者への援助システムに関する縦断的調査研究事業」厚生省・老人保健事業推進費等補助金
	④「21世紀の地域保健福祉システムに関する調査研究事業」厚生省・老人保健事業推進費等補助金
フィールド	町田市:市内ホームヘルプサービス事業者16機関による「民間ケアネットワーク研究会」を組織(継続) *年12回の定期研究会を開催

II 経済問題

調査研究	①訪問健康指導に関する調査研究
	②行政制度改革(年金保険等)に関する研究

III 生きがい問題

調査研究	①パソコン通信「ダイヤネットワーク」(継続)
	②「企業退職高齢者に関する調査研究」
	③「企業退職者のキャリアを生かした多様な地域課題取り組みとネットワーク社会参加活動による生きがい健康づくり事業」長寿社会開発センター助成事業
モニター	①連絡会議(7月)講演「公的介護保険について」京極高宣氏 ②交流会(11月)

V 国際交流・学会活動

国際交流	なし
学会活動	①日本地域看護学会(6月東京)
	②日本老年社会科学会(7月沖縄)
	③日本公衆衛生学会(10月岐阜)

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	①「後期高齢者の生活自立に関する調査研究事業」(10月)
	②「在宅介護サービス機関の有機的連携に関する実証的研究事業」(H11年3月)
	③「在宅療養を推進するケアマネジメント手法に関する調査研究事業」(H11年3月)
講演会開催	①国際高齢者年・当財団5周年シンポ「高齢社会の光と影」、講演「命の輝き」堀田力氏、討論「高齢社会の光と影」辻哲夫、森茂、村田幸子、清家篤氏(9月)
	②講演「しあわせで活力ある長寿社会づくりのために」浜田淳、田中滋氏(H11年3月)
SS展	「ボランティア活動有無の調査」
財団新書	11.「高齢社会の光と影」(シンポジウムの収録集)(シンポジウムとダイヤ財団新書は厚生省・老人保健事業推進費等補助金)
その他	①当財団設立5周年記念パーティ(9月経団連会館)
	②高連協の設立に参加

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成11年度(1999年度)
--	----------------

I 健康問題

調査研究	①「ホームヘルパー等の能力評価および技術向上研修に関するモデル運営事業」 社会福祉・医療事業団助成研究
	②「在宅療養を推進する介護支援サービス手法に関する調査研究」
	③「虚弱高齢者への援助システムに関する縦断的調査研究」
フィールド活動	町田市:市内訪問介護サービス実施公民14機関による研究委員会を設置 *「ホームヘルパーの技術向上ニーズ調査」を実施

II 経済問題

調査研究	「老後を支える社会保障(医療・介護・年金)の経済的研究」
------	------------------------------

III 生きがい問題

調査研究	①「企業退職高齢者の社会的ネットワークに関する研究」
	②「高齢社会における企業と地域社会の関係に関する調査研究」
	③「退職準備プログラムに関する研究」
	④「日本型サクセスフル・エイジング研究」
モニター/DAA	リサーチモニター制度を5月に改組し、6月ダイヤ・アクティブ・エイジング制度(DAA)を発足、7月発足会
ダイヤネットワーク	ダイヤネットワーク(H12年1月ダイヤネットと改称)「活動報告書、活動記録」発行(12月)

V 国際交流・学会活動

国際交流	①国祭老年学会アジアオセアニア地域大会発表(6月韓国)
	②高齢者介護専門見本市・会議に参加(H12年1~2月ドイツ)
学会活動	①日本老年社会学会(6月京都)
	②日本公衆衛生学会(10月別府)
	③日本在宅ケア学会(H12年1月東京)
連携	なし

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	①「21世紀の地域保健福祉システム研究会報告」(5月)
	②「虚弱高齢者への援助システムに関する縦断的調査研究」(7月)
	③「パソコン通信をツールとした企業退職高齢者の生きがいづくり - ダイヤネットワーク活動」活動報告および活動記録(12月)
	④「ホームヘルパーの技術向上に関するニーズ調査」結果報告(H12年3月)
講演会開催	①「アクティブ・エイジングをめざして」田中尚輝、坂本忠雄氏(11月)
	②「高齢者の健康を考える…いきいきと暮らすための秘訣…」荒尾孝、岡本祐三氏(H12年2月)
SS展	DAAの活動紹介
財団新書	12.「しあわせで活力ある長寿社会づくりのために」
	13.「アクティブ・エイジングをめざして」
	14.「楽しいシニアライフのすすめ1」
その他	①ホームページを開設(H12年1月) ②高連協の幹事団体として'99国際高齢者年記念事業の共同イベント等に参加

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成12年度(2000年度)
--	----------------

I 健康問題

調査研究	①「ホームヘルパー等の能力評価および技術向上研修に関するモデル運営事業」社会福祉・医療事業団助成研究
	②「ひとり暮らし高齢者のサポート・システム研究」厚生労働省・老人保健健康増進等補助金事業
	③「有酸素運動を用いた元気高齢者づくりのためのエアロビック研究」
フィールド活動	①町田市共催「技術向上モデル研修会」を開催
	②同市現任ホームヘルパーへの「ヘルパー110番」運営
	③同市訪問介護事業者との「民間ケアネットワーク研究会」運営

II 経済問題

調査研究	「老後を支える社会保障(医療・介護・年金)の経済的研究」
------	------------------------------

III 生きがい問題

調査研究	①「高齢社会における企業と地域社会との関係に関する調査研究」
	②「企業退職高齢者の社会的ネットワークに関する研究」
DAA	①「DAAニュース」隔月刊行
	②交流会(6月) 「高齢社会フォーラム」(12月)
ダイヤネット	①全員集会(6月)
	②DOKOKAI(毎月)
	③三菱探訪会
	④「秩父観音巡り」インパク出展

V 国際交流・学会活動

国際交流	①「シルバーサービス振興会第25回海外調査団」に参加(7月スペイン、フランス、ドイツ)
	②「少子高齢化社会日中討論会」に参加(9月上海、杭州)
学会活動	①日本老年社会科学会(7月札幌)
	②日本在宅ケア学会(H13年1月大阪)
連携活動	①高連協の行事(インパク、アクティブスクエア、総務庁セミナー、社会保障研究集会)に参加
	②FS研と交流懇談会(H13年2月)

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	「ホームヘルパーの技術向上に関するモデル研修」結果報告書(H13年3月)
講演会開催	①「定年後のいきいき人生を語る」小林惟司、守永英輔氏(11月)
	②「健やかに生きるために」秦葭哉、穂苅正臣氏(H13年3月)
SS展	ホームヘルパー技術向上調査・研修を中心に紹介
財団新書	15.「高齢者の健康を考える」
	16.「楽しいシニアライフのすすめ2」
	17.「定年後のいきいき人生を語る」
その他	福祉・生活環境21主催「アクティブ・スクエア2001」に出展、ダイヤビックの紹介と実演(H13年2月)

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成13年度(2001年度)
--	----------------

I 健康問題

調査研究	①「訪問介護におけるサービス提供責任者の実態及びその質的向上に関する研究事業」社会福祉・医療事業団助成研究
	②「ひとり暮らし高齢者のサポート・システムに関する研究」
	③社会老年学文献データベース(<i>DiaL</i>)
	④「有酸素運動を用いた元気高齢者づくりのためのエアロビック研究(DIABIC)」長寿社会開発センター助成事業
フィールド活動	①町田市共催「訪問介護員キャリアアップ講座」を開催
	②町田市現任ホームヘルパーへの「ヘルパー110番」運営
	③町田市訪問介護事業者との「民間ケアネットワーク研究会」運営

II 経済問題

調査研究	実施せず
------	------

III 生きがい問題

調査研究	①「高齢社会における企業と地域社会との関係に関する調査研究」
	②「都会地区における企業退職高齢者のライフスタイル研究」(予備着手)
DAA	①「DAAニュース」隔月刊行 ②交流会(7、9、12月) ③インパク出展
ダイヤモンドネット	①全員集会(6月) ②DOKOKAI、DPC(毎月) ③三菱探訪会、坂東観音巡り ④会員PCアンケート調査 ⑤「秩父巡り」インパク出展

V 国際交流・学会活動

国際交流	国際老年学会第17回世界会議に参加、3題発表(7月バンクーバー)
学会活動	①日本老年社会科学会(6月大阪)
	②日本介護福祉学会(9月東京)
	③日本公衆衛生学会(10月香川)
連携活動	①高連協に参画 ②長寿連協幹事 ③FS研と交流懇談会(H14年3月)

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	①「高齢期における自立と社会参加に関する調査研究」(H14年3月)
	②「サービス提供責任者の実態に関する研究」報告書(H14年3月)
講演会開催	①「心豊かに生きる」渡邊一雄、大堀アンディ氏(10月)
	②「中高年期における心の健康を考える」長田久雄、上田雅夫氏(H14年3月)
SS展	訪問介護員キャリアアップ講座とダイヤモンドを中心を紹介
財団新書	18.「健やかに生きるために」
	19.「心豊かに生きる」
	20.「楽しいシニアライフのすすめ3」
その他	①書籍発行「ホームヘルパー110番」 ②ビデオ発行「シニアが楽しむエアロビック ダイアビック第1、2巻」 ③社会老年学文献データベース(<i>DiaL</i>)公開

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤモンド」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成14年度(2002年度)
--	----------------

I 健康問題

調査研究	①介護サービスの質の向上研究 1)「訪問介護員の介護技術チェックシートの開発研究」社会福祉・医療事業団助成研究 2)「利用者のサービス選択を支援する情報公開モデル運営事業」社会福祉・医療事業団助成研究 3)「ホームヘルパーの医療関連行為の実態とそのリスク管理に関する研究」勇美記念財団助成研究
	②「ひとり暮らし高齢者のサポートシステムに関する研究」
	③社会老年学文献データベース(Dial)
	④「エアロビック研究(DIABIC)」長寿社会開発センター助成事業
地域フィールド活動	①町田市共催「訪問介護員キャリアアップ講座」を開催 ②町田市訪問介護員2級養成研修(受託事業) ③町田市現任ホームヘルパーへの「ヘルパー110番」運営 ④町田市訪問介護事業者との「民間ケアネットワーク研究会」

II 経済問題

調査研究	実施せず
------	------

III 生きがい問題

調査研究	①「高齢社会における企業と地域社会との関係に関する調査研究」 ②「都市高齢者の住ライフスタイル研究」
DAA	①「DAA活動の目的と方針」の改訂 ②DAAニュース隔月刊行 ③交流会(6、10、1月) ④DAA叢書の編集
ダイヤネット	①DOKOKAI、DPC(毎月) ②三菱歴史探訪会 ③武蔵、秩父観音巡り ④坂東、武蔵観音巡りのH/P、CD-R制作 ⑤特養ホームにボランティア ⑥ボランティア活動のアンケート調査

V 国際交流・学会活動

国際交流	①「世界NGOフォーラム」に高連協一員で参加(4月マドリッド) ②シルバーサービス振興会「第28回海外視察団」に参加(10月スウェーデン、デンマーク)
学会活動	①論文:1)「白山社会学研究」第11号 2)「日本痴呆ケア学会誌」第2巻1号 3)「老年社会科学」第24巻第3号 ②学会参加・研究成果発表:1)日本老年社会学会(7月福岡) 2)日本家族社会学会(9月東京) 3)日本介護福祉学会(9月長崎) 4)日本公衆衛生学会(10月埼玉) 5)日本社会福祉学会(10月東京) 6)The Gerontological Society of America 55th Annual Meeting(6月ボストン)
連携活動	①高連協に役員団体で参加 ②長寿連協に幹事団体で参加 ③FS研、三菱総研と交流懇談会

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	①「利用者のサービス選択を支援する情報公開モデル運営事業」報告書(H15年3月) ②「訪問介護員の介護技術チェックリストの開発研究」報告書(H15年3月)
講演会開催	①「21世紀を心豊かな高齢社会に」高橋重郷、袖井孝子氏 ②「老いの成就について考える」高橋龍太郎、碑文谷創氏
SS展	ダイヤビックを中心に出版(H15年3月)
財団新書	21.「中高年期の心の健康」 22.「21世紀を心豊かな高齢社会に」
その他	①書籍発行「ホームヘルパースキルアップマニュアル」 ②ビデオ「シニアが楽しむエアロビック ダイヤビック第3巻」

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成15年度(2003年度)
--	----------------

I 健康問題

調査研究	①「介護サービスの質の向上研究」 1)「訪問介護員養成における基本介護技術の習得を支援する教材の開発研究」 2)「介護サービス情報公開事業」
	②「高齢期のサポートシステム研究」 1)「高齢期における生活自立と家族サポート」 2)「老老介護の現状と課題に関する調査研究」 3)「要支援・要介護高齢者の在宅生活の限界点と家族の役割」
	③社会老年学文献データベース(DiaL)
	④「エアロビック研究(DIABIC)」
地域フィールド活動	①町田市と共催で「訪問介護員キャリアアップ研修」を開催 ②町田市訪問介護員2級養成研修(町田市受託事業) ③町田市現任ホームヘルパーへの「ヘルパー110番」運営 ④「第2回高齢者エアロビック研究会」

II 経済問題

調査研究	実施せず
------	------

III 生きがい問題

調査研究	①「高齢社会における企業と地域社会との関係に関する調査研究」 ②「都市高齢者の住ライフスタイル研究」
DAA	①社会参加活動の推進 ②DAA叢書1「楽しいシニアライフのすすめ4」発行 ③交流会の実施(H16年1月) ④「ダイヤかながわ交流会の歩み」発刊
ダイヤネット	①新「目的と活動方針」の策定 ②新H/P制作 ③シニア情報生活アドバイザー制度の普及推進 ④観音巡りH/PとCD-R制作 ⑤ボランティア事例集取纏め

V 国際交流・学会活動

国際交流	①ホームヘルパーの教育と労働条件調査(8月ベルギー他2ヶ国) ②在宅介護(介護保険)に関する日米共同研究ミーティング、ハルに出席(H16年1月シカゴ)
学会活動	①論文:1)「社会福祉とコミュニティ:共生・共同・ネットワーク」 2)「新社会老年学:シニアライフの行方」 3)「生活機能の経年変化」老年社会科学 4)「サービス提供責任者の配置実態」介護福祉学 5)「ホームヘルパーの就業実態」厚生の指標 6)「一人暮らし高齢者の生活課題」老年精神医学雑誌 ②学会参加・研究成果発表:1)日本老年社会学会(6月名古屋) 2)日本介護福祉学会(9月石川) 3)日本家族社会学会(9月大阪) 4)Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology(11月東京)
連携活動	①高連協に役員団体で参加 ②長寿連協に幹事団体で参加 ③明治安田生活福祉研究所と意見交換会 ④三菱総合研究所と交流

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	①「高齢期の家族関係に関する調査研究」報告書(10月) ②「訪問介護員養成における基本介護技術の習得を支援する教材の開発研究事業」報告書(H16年3月)
講演会	「当財団設立10周年記念シンポジウムとパネルディスカッション」柴田博氏他(10月)
SS展	15年度の当財団活動を紹介(H16年3月)
財団新書	23.「老いの成就について考える」 24.「ウェルカム! 高齢社会」
その他	①「ダイヤビック・サウンド第1集」CD制作(10月) ②ダイヤビック紹介 日経、読売、地方紙、フジ他

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成16年度(2004年度)
--	----------------

I 健康問題

調査研究	①「介護サービスの質の向上研究」 1)「ケアの適切性に基づいた訪問介護サービスの支援研究」 2)「ホームヘルパー『介護技術チェックシート』普及事業」 3)「介護予防事業ニーズ調査」 4)「ホームヘルパー定点調査」 5)「介護サービス情報公開事業」
	②「高齢期のサポートシステム」 1)「高齢期の自立と家族サポート」 2)「老老介護の現状と課題に関する調査研究」 3)「要支援・要介護高齢者の在宅生活の限界点と家族の役割」
	③社会老年学文献データベース(<i>DiaL</i>)
	④「エアロビック研究(DIABIC)」
地域フィールド活動	①町田市と共催で「訪問介護員キャリアアップ研修」を開催
	②町田市訪問介護員2級養成研修(町田市受託事業)
	③町田市現任ホームヘルパーへの「ヘルパー110番」運営
	④「第1回ダイヤモンド研究会」

II 経済問題

調査研究	実施せず
------	------

III 生きがい問題

調査研究	①「有酸素運動を用いた元気高齢者づくりの研究」
	②「シニア情報生活アドバイザー」
	③「高齢期のライフスタイルに関する研究」
DAA	①社会参加活動の推進 ②DAA叢書2「楽しいシニアライフのすすめ5」、同3「同6」発行 ③交流会の実施(10月) ④世代間交流研究
ダイヤモンドネット	①新「目的と活動方針」の策定 ②新H/P運用開始 ③シニア情報生活アドバイザー制度の普及と推進 ④観音巡りのH/PとCD-Rの制作 ⑤ボランティア事例集H/P公開

V 国際交流・学会活動

国際交流	①海外の先進的事例および最新情報の収集
	②ミシガン大夏期講習参加(7月)
学会活動	①論文:1)「一人暮らし高齢者の生活課題」老年精神医学雑誌 2)書評「<老い衰えゆくこと>の社会学」家族社会学研究 3)「アジア的価値と高齢者ケア」ジェロントロジー・ニューホライズン 4)「介護充実感尺度の開発」厚生指標
	②学会参加・研究成果発表:1)日本老年社会学会 2)日本介護福祉学会 3)日本家族社会学会 4)日本社会福祉学会 5)日本公衆衛生学会 6)日本病院管理学会 7)日本在宅ケア学会
連携活動	①高連協に役員団体で参加 ②長寿連協に幹事団体で参加 ③明治安田生活福祉研究所と意見交換会 ④三菱総合研究所と交流

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	①「老老介護の現状と課題に関する調査研究」(9月)
	②「ケアの適切性に基づいた訪問介護サービスを支援する研究事業」(H17年3月)
講演会	「ユニバーサルスポーツでいきいき高齢社会を！」川久保清、松尾哲矢氏(11月)
SS展	16年度の当財団活動を紹介(H17年3月)
新書	25.「ユニバーサルスポーツでいきいき高齢社会を！」
その他	①「要支援・要介護高齢者と家族の役割」紹介 時事通信 ②「老老介護調査研究」紹介 月刊福祉、常陽、西日本、岐阜 ③ダイヤモンド紹介 雑誌他

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤモンド」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成17年度(2005年度)
--	----------------

I 健康問題

調査研究	①「介護サービスの質の向上研究」 1)「ケアの適切性に基づいた訪問介護サービスを支援する研究」 2)「介護予防マネジメント機能強化事業」 3)「ホームヘルパー『介護技術チェックシート』の普及事業」 4)「効果的な介護予防事業に関するニーズ調査」 5)「『ホームヘルパー定点調査』分析」 6)「介護サービス情報公開事業」
	②「高齢期のサポートシステム」 1)「高齢期における生活自立と家族サポート」 2)「老老介護の現状と課題に関する調査研究」 3)「要支援・要介護高齢者の在宅生活の限界点と家族の役割」
フィールド活動	③社会老年学文献データベース(DiaL)
	④「エアロビック研究(DIABIC)」
フィールド活動	①町田市より受託し「訪問介護員キャリアアップ研修」を開催
	②町田市現任ホームヘルパーへの「ヘルパー110番」運営
	③「第2回ダイヤビック研究会」

II 経済問題

調査研究	「高齢者の消費行動」につき文献調査等
------	--------------------

III 生きがい問題

調査研究	「もうひとつのサクセスフル・エイジング-三菱電機中津川製作所の場合-」自費出版 関係先配布
	1)「世代間交流」 2)「生きがい尺度研究」 3)「生きがいと失職感研究」 4)「有酸素運動を用いた元気高齢者づくりのためのエアロビック研究」
DAA	特別助成制度により社会貢献活動を支援 DAA交流会(H18年1月)テーマ「我がグループのいきいき活動」 世代間交流研究
ダイヤネット	①研究テーマとしてはH17年度末をもって終了し、ダイヤネットは当財団から18年度中に自立することを8月に申し入れ ②新H/P運用 ③シニア情報生活アドバイザー制度の普及と推進 ④ITを活用した杉並区での社会貢献活動 ⑤観音巡りのH/PとCD-Rの制作

V 国際交流・学会活動

国際交流	リオ デ ジャネイロで開催された国際老年学会議期間中、現地高齢者施設訪問
学会活動	①論文:1)「介護技術チェックシート」老年社会科学誌論文掲載(5月) 2)『厚生への指標』第52巻7号 3)記事『青鷗』H18年春号・東海教育研究所 ②学会参加・研究成果発表:1)日本老年社会科学会 2)日本介護福祉学会 3)日本公衆衛生学会 4)日本病院管理学会 5)国際老年学会議 6)The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research
連携活動	①高連協に役員団体で参加 ②長寿連協に幹事団体で参加 ③明治安田生活福祉研究所と意見交換会 ④ヒルトップ倶楽部との連携

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	①「ケアの適切性に基づいた訪問介護サービスを支援する研究事業」(H18年3月) ②「介護に対する肯定的/否定的認知評価が介護者の精神的健康の変化に及ぼす影響」分担執筆(10月)
講演会	「豊かな経験を活かして いきいき高齢社会を！」白戸洋、高橋陽子氏(11月)
SS展	中止
新書	26.「豊かな経験を活かして いきいき高齢社会を！」
その他	①介護技術チェックシートホームページを開設(7月) ②介護技術チェックシート指導者研修を開催(10月) ③第2回介護サービスの政策評価の方法に関するワークショップを開催

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

※「VI意識啓発・成果の普及」の「SS展」は(社)シルバーサービス振興会の「シルバーサービス展」の略。

	平成18年度(2006年度)
--	----------------

I 健康問題

調査研究	①「介護サービスの質の向上研究」 1)「ケアの適切性に基づいた訪問介護サービスを支援する研究」 2)「介護予防サービスの効果検証共同研究事業」 3)「生活機能の変動と就業の継続に関する研究」 4)「訪問介護における管理者研修プログラムの活用と効果測定研究事業」(厚生労働省老健事業) 5)「ホームヘルパー定点調査」の分析 6)「介護予防サービス情報公開事業」 7)「介護技術チェックシート普及事業」
	②「高齢期のサポートシステム」 1)「要支援・要介護高齢者の在宅生活の限界点と家族の役割」(厚生労働省・文部科学省助成研究)
	③社会老年学文献データベース (Dial)
	④「エアロビック研究(DIABIC)」 1)ひばり会による普及 2)自治体介護予防事業に協力 3)高齢者と知的障がい者の触れ合い
フィールド活動	①町田市より受託し「ホームヘルパー現任者研修」を開催
	②町田市現任ホームヘルパーへの「ヘルパー110番」運営
	③「第3回ダイヤビック研究会」

II 経済問題

調査研究	メインテーマ「都市高齢者の消費行動に関する調査・研究」 サブテーマ「『小遣い簿』を通じた高齢者のライフスタイルの研究」を設定
------	---

III 生きがい問題

調査研究	1)世代間交流 2)生きがい感研究 3)退職後の生きがい感に関する調査・研究 4)有酸素運動を用いた元気高齢者づくりのためのエアロビック研究
DAA	特別助成制度により社会貢献活動を支援 DAA交流会(H19年1月31日)テーマ「高齢者の生きがいとは ～生きざまへの提言～」 世代間交流研究
ダイヤネット	①研究テーマとしては17年度末をもって終了し18年度末に自立化 ②シニア情報生活アドバイザー制度の普及と推進 ③ITを活用した杉並区での社会貢献活動

V 国際交流・学会活動

国際	ダイヤビック指導者等中国交流団(H19年10月)募集開始
学会活動	学会参加・研究成果発表 1)日本老年社会学会 2)日本介護福祉学会 3)日本公衆衛生学会 4)日本病院管理学会
連携活動	①高連協 ②長寿連協に幹事団体で参加 ③(株)明治安田生活福祉研究所と意見交換会 ④ヒルトップ倶楽部に委託研究

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	「ケアの適切性に基づいた訪問介護サービスを支援する研究事業」<III> (H19年3月) 「訪問介護における管理者研修モデル事業」(H19年3月) 「だれでもダイヤビック指導者用解説冊子」(H19年3月)
講演会	「安心できる老後の住まいのために！」 田村明孝、安藤高朗氏(10月)
新書	27.「安心できる老後の住まいのために！」
その他	①「介護利用者モニタリング支援システム」ホームページ開設(H19年3月) ②介護技術チェックシート指導者研修開催 ③ダイヤビック・インストラクター養成講座開催

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

	平成19年度(2007年度)
--	----------------

I 健康問題

調査研究	①「介護サービスの質の向上に関する調査・研究」1)「チームアプローチを促進する『訪問記録』の開発研究事業」2)「介護予防サービスの効果検証共同研究事業」3)「生きがい就業の介護予防効果に関する共同研究事業」4)「訪問介護における管理者研修モデル事業」5)「ホームヘルパー現任者研修事業」6)「介護技術チェックシートの普及事業」7)「訪問介護版利用者モニタリング支援システムの普及事業」8)「介護予防版『面談支援マニュアル』の開発研究事業」9)「特定高齢者候補者の選定における要介護認定基本調査の活用方法に関する調査研究事業」
	②「高齢期におけるサポートシステムに関する研究」1)「介護を必要とするひとり暮らし高齢者のQOL」
	③社会老年学文献データベース (<i>Dial</i>) の運営事業
	④「エアロビック研究(DIABIC)」 1)ひばり会による普及 2)自治体介護予防事業に協力 3)知的障がい者向けエアロビック「だれでもダイヤビック」の開発、インストラクター養成、知的障がい者施設訪問、指導者用ビデオ・冊子作成
フィールド活動	①町田市より受託し「ホームヘルパー現任者研修」を開催
	②町田市現任ホームヘルパーへの「ヘルパー110番」運営
	③第4回ダイヤビック研究会

II 経済問題

調査研究	1)テーマ「高齢者の消費行動に関する調査・研究」(高齢者の消費行動とライフスタイルを結び付けた事例研究) 2)サブテーマ「『小遣い簿』を通じた高齢者のライフスタイルの研究」(高齢者の小遣い簿の調査)
------	---

III 生きがい問題

調査研究	①「生きがい感・生きがい感尺度に関する研究」(サラリーマンの職業的引退後の生きがい感の変化・縮小とライフスタイル等の変化との関連性等の研究)
	②「都市近郊における中高年男性の地域参加に関する研究」(定年退職後の社会活動への参加を通じてできた社会関係の調査)
DAA	1)「DAA活動の目的と方針」に基づき会員の親睦・交流や地域社会参加・社会貢献活動を推進・支援 2)DAA運営委員会と連名で「DAA活動の目的と方針」と関連諸規定を「DAA会則」および「DAA運営細則」に一本化

V 国際交流・学会活動

国際	第8回アジア・オセアニア国際老年学会議(北京)中、ダイヤビック中国交流団が現地高齢者施設訪問
学会活動	①論文「介護予防施策における対象者抽出の課題」厚生学の指標, 54(5)(2007) ②学会参加・研究成果発表 1)日本老年社会学会大会 2)日本都市社会学会大会 3)日本介護福祉学会大会 4)日本MDS学会 5)日本公衆衛生学会総会 6)日本病院管理学会学術総会 7)8th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology & Geriatrics 8)The Gerontological Society of America 60th Annual Scientific Meeting
連携	①明治安田生活福祉研究所と意見交換会 ②高齢社会NGO連携協議会での活動

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	指導者用テキスト「知的障がい者が楽しむエアロビック だれでもダイヤビック」(H20年3月)
	「訪問介護における管理者研修モデル事業-カリキュラムの改善と効果測定方法の開発-II」(H20年3月)
	「チームアプローチを促進する「訪問記録」の開発研究事業」(H20年3月)
	「介護予防版『面談支援マニュアル』の開発研究事業-訪問拒否、非利用者のケース分析と対応策の検討-」(H20年3月)
	「特定高齢者候補者の選定における要介護認定基本調査の活用方法に関する調査研究事業」(H20年3月)
講演会	「『心のおしゃれ』でいきいき高齢社会を！-自分らしく生きるために-」曾我恵美子、井上勝也氏(9月)
新書	28.「『心のおしゃれ』でいきいき高齢社会を！-自分らしく生きるために-」
その他	①介護技術チェックシート指導者研修開催
	②ダイヤビック・インストラクター養成講座開催

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

	平成20年度(2008年度)
--	----------------

I 健康問題

調査研究	①「介護サービスの質の向上に関する調査・研究(町田プロジェクト)」1)「チームアプローチを促進する『訪問記録』の開発研究事業」2)「介護予防サービスの効果検証共同研究事業」3)「生きがい就業の介護予防効果に関する共同研究事業」4)「サービス提供責任者の業務実態に関する研究事業」5)「ホームヘルパー現任者研修事業」6)「介護技術チェックシートの普及事業」7)「介護サービス事業所管理者研修事業」8)「保険者における介護予防評価の効率的運営に関する研究事業」9)「地域包括支援センター運営評価指標の開発事業」 ②「高齢期におけるサポートシステムに関する研究」1)家族介護者の介護不全感とその関連要因 ③社会老年学文献データベース(<i>DiaL</i>)の運営事業 ④「エアロビック研究(DIABIC)」1)ひばり会による普及活動 2)ダイヤビックインストラクターの養成、ダイヤビック勉強会・ダイヤビック研究会の開催 3)知的障がい者施設の新規訪問・知的障がい者向けエアロビックプログラムの適正化
フィールド活動	①町田市より受託した「ホームヘルパー現任者研修」の開催 ②町田市現任ホームヘルパーへの「ヘルパー110番」の運営 ③第5回ダイヤビック研究会の開催

II 経済問題

調査研究	1)テーマ「高齢者の消費行動に関する調査・研究」(高齢者の消費行動とライフスタイルを結び付けた事例研究) 2)サブテーマ「『小遣い簿』を通じた高齢者のライフスタイルの研究」(高齢者の小遣い簿の調査)
------	---

III 生きがい問題

調査研究	①「生きがい感・生きがい感尺度に関する研究」(サラリーマンの職業的引退後の生きがい感の変化・縮小とライフスタイル等の変化との関連性等の研究) ②「都市近郊における中高年男性の地域参加に関する研究」(定年退職後の社会活動への参加を通じてできた社会関係の調査)
DAA	1)「DAA会則」に基づいた会員の交流や社会貢献活動等を推進・支援するため一般助成・特別助成を実施、DAA事務局として機能 2)DAA会員の自主的な運営による交流会を開催 3)DAA運営委員会を通して会員による新規会員勧誘の動きを促進

V 国際交流・学会活動

学会活動	①研究論文「老年期における死に対する態度尺度(DAP)短縮版の信頼性ならびに妥当性」厚生学の指標, 56(1)(2009) ②学会参加・研究成果発表 1)日本老年社会学会大会 2)日本ケアマネジメント学会研究大会 3)日本都市社会学会大会 4)日本MDS学会総会・学会 5)日本介護福祉学会大会 6)日本公衆衛生学会総会 7)日本医療・病院管理学会学術総会
連携	①明治安田生活福祉研究所と意見交換会 ②高齢社会NGO連携協議会での活動

VI 意識啓発・成果の普及

研究報告書	「チームアプローチを促進する『訪問記録』の開発研究事業」(H21年3月) 「保険者における介護予防評価の効率的運営に関する研究」(H21年3月) 「サービス提供責任者の業務時間に関する調査研究」(H21年3月) 「地域包括支援センター運営評価指標の開発事業」(H21年3月)
講演会	当財団設立15周年記念事業 ①介護従事者対象シンポジウム・介護技術講習会「信頼されるサービス提供責任者とは」(H20年8月) ②一般市民対象シンポジウム「超高齢社会を生きる-介護保険・介護予防の今とこれから-」(H20年11月)
新書	29.「超高齢社会を生きる-介護保険・介護予防の今とこれから-」
その他	①介護技術チェックシート指導者研修の開催 ②ダイヤビック・インストラクター養成講座の開催

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

	平成21年度(2009年度)
--	----------------

I 健康問題

調査 研究	①「介護サービスの質と管理手法の研究」1)「利用者モニタリングの有効活用に関する研究事業」2)「訪問介護における事故・ヒヤリハットのリスクマネジメント研究事業」
	②「介護予防政策の研究」1)「保険者における介護予防評価の効率的運営に関する研究事業」2)「生きがい就業の介護予防効果に関する研究事業」3)「新潟県長岡市介護予防事業評価システムの開発および調査・研究事業」4)「うつ予防事業による効果の検証および評価事業」
	③「介護従事者への教育プログラムの研究」1)「港区介護サービス事業者管理者研修事業」2)「町田市訪問介護員キャリアアップ研修事業」
	④社会老年学文献データベース(<i>Dial</i>)の運営事業
	⑤「エアロビック研究(DIABIC)」1)ひばり会による普及活動 2)ダイヤビック教室参加者を対象とした調査の開始 3)知的障がい者への応用 4)研究会の開催と情報提供誌の発行 5)ダイヤビック・インストラクター養成講座の開催

II 経済問題

調査 研究	1)テーマ「高齢者の消費行動に関する調査・研究」2)サブテーマ「『小遣い簿』を通じた高齢者のライフスタイルの研究」(高齢者の消費行動とライフスタイルを結び付けた事例研究)
----------	---

III 生きがい問題

調査 研究	①「生きがい感・生きがい感尺度に関する研究」(サラリーマンの職業的引退後の生きがい感の変化・縮小とライフスタイル等の変化との関連性等の研究)
	②「都市高齢者の社会関係周縁部に関する研究」(都市近郊居住企業退職高齢者の日常の交流における周縁部について測定指標・調査手法の調査)
	③「DAA活動を対象にした調査・研究」(企業退職高齢者(DAA会員)の名刺使用状況に見る社会参加意識について調査)
DAA	会員の地域社会参加・貢献活動等の推進、当財団の調査・研究への協力

V 国際交流・学会活動

学会 活動	①研究論文 1)「都市部シルバー人材センターにおける就業実態-性・年齢階級による検討-」老年社会科学, 31(1)(2009) 2)「傾聴ボランティア活動に関連する社会的要因」応用老年学, 3(1)(2009) 3)「Effect of the Japanese preventive-care version of the Minimum Date Set-Home Care on the health-related behaviors of community-dwelling, frail older adults and skills of preventive-care managers; A quasi-experimental study conducted in Japan」Geriatrics and Gerontology International, 9(2009) 4)「60歳以上退職者の生きがい概念の構造-生きがい概念と主観的幸福感の相違-」老年社会科学, 31(3)(2009) 5)「高齢者との死別と家族介護者の適応」日米LTCI研究会編, 在宅介護における高齢者と家族; 都市と地方の比較調査分析(10章), ミネルヴァ書房(2010) 6)「老いる権利; 尊厳ある生を全うするために」田中義久編, 触発する社会学; 現代日本の社会関係(2章), 法政大学出版局(2010)
	②学会参加・研究成果発表 1)日本老年社会学会大会 2)日本ケアマネジメント学会研究大会 3)国際老年学会 4)アジア太平洋ヘルスプロモーション・健康教育学会 5)日本健康心理学会大会 6)日本都市社会学会大会 7)日本介護福祉学会大会 8)日本医療・病院管理学会学術総会 9)日本公衆衛生学会総会
連携	①明治安田生活福祉研究所と意見交換会 ②高齢社会NGO連携協議会での活動

VI 意識啓発・成果の普及

研 究 報 告 書	「保険者における介護予防評価の効率的運営に関する研究」II (H22年3月)
	「利用者モニタリングの有効活用に関する研究事業」I (2009年度) (H22年3月)
	「町田市介護職員キャリアアップ研修2009」(H22年3月)
	「平成21年度港区介護サービス事業者管理者研修」(H22年3月)
	「長岡市介護予防事業評価システムの開発および調査・研究事業(平成19年度～平成21年度)-特定高齢者の介護予防サービスの短期、中長期的効果の検証-」平成21年度報告書(H22年3月)
講演会	「介護するということ-家族介護の理想と現実-」(H21年11月)
新書	30.「介護するということ-家族介護の理想と現実-」

※当財団の刊行物として財団新書の他に機関紙「ダイヤニュース」(季刊)と「活動報告書」(6月発行)がある。

平成22年度(2010年度)

I 調査・研究活動【公益目的事業1】

調査研究	健康問題	①「介護サービスの質と管理手法の研究」 1)「利用者モニタリングの有効活用に関する研究事業」 2)「介護における事故・ヒヤリハットの再発防止を支援するシステムに関する研究」 3)介護保険外サービスのあり方に関する研究 ②「介護予防政策の研究」 1)「介護予防事業のエビデンスを蓄積する共同事業」 2)「生きがい就業の継続要因に関する共同研究事業」 ③「介護従事者への教育プログラムの研究」 1)「港区介護サービス事業者管理者研修事業」 2)「町田市介護員キャリアアップ研修事業」 3)介護技術チェックシート普及事業 4)訪問介護職員のキャリアパス構築に向けた追跡調査 ④高齢者の身体的健康度、精神的健康度に関する研究 1)介護予防事業評価システムの開発および調査研究 2)うつ予防プログラムの開発および効果検証事業 3)うつ予防応用プログラムの開発および効果検証事業 4)地域高齢者の精神的健康度および予後に関する縦断的研究 ⑤有酸素運動を用いた元気高齢者づくりのためのエアロビック研究
	経済問題	1)「高齢者の消費行動に関する調査・研究-『小遣い簿』を通じた高齢者のライフスタイルの研究」
	生きがい問題	1)生きがい感・生きがい感尺度に関する研究 2)ダイヤ・アクティブエイジング・アソシエーション (DAA) 3)都市高齢者の社会関係周縁部に関する研究 4)中高年の交流媒体としての電子メールに関する研究
	国際比較	1)国際保健事業の長期評価のためのプレ調査研究
	研究成果	研究論文 1)「高齢領域における音楽療法士の精神的自立性と連携との関連」日本応用老年学会誌、4(1):51-59 (2010年8月) 2)「Changes in medical and nursing care after admission to palliative care units: a potential method for improving regional palliative care Supportive Care in Cancer[2010Sep;18(9)]」 3)「Should the provision of home help services be contained? :Validation of the new preventive care policy in Japan BMC Health Services Research[2010Aug2;10]」 4)「ホームヘルパーが自分の判断で行っていることー自由記述からみた訪問介護計画書によらない援助の内容と理由ー」介護福祉学 17巻2号 (2010年10月) 5)「居宅介護支援事業所における診療情報の入手の実態と影響要因」厚生学の指標 57巻13号 (2010年11月) 6)「Collaborative relationship in preventive home visits to older people. International Journal of Older People Nursing[2011 Mar;6(1)]」 7)「軽度者への訪問介護サービスは虚弱化を促進するのか;日本とデンマークでの実証研究から」介護保険情報, 2011. 3. 8)「軽度者向け生活援助サービスの市町村事業への移管;デンマークの訪問介護サービス制度の検証から」社会保険旬報, No2453(2011. 3. 11) 9)「高齢者のIT利用とQOL(生活の質)に関する調査研究報告」エイジレスフォーラム Vol. 8(2010年6月)」 報告書 「介護保険外サービスのあり方に関する調査研究」報告書(H23年3月) 「長岡市における地域高齢者の精神的健康度の実態」報告書(H23年3月) 「中国地域保健事業長期的評価のためのプレ調査研究」報告書(H23年3月) 「特定高齢者の介護予防サービスの短期、中長期的効果の検証」報告書(H23年3月) 学会発表 1)日本老年社会学会大会 2)日本地域福祉学会年次大会 3)日本緩和医療学会学術大会 4)2010 World Psychiatric Association International Congress 5)日本建築学会大会(北陸) 6)日本都市社会学会大会 7)日本民族衛生学会総会 8)日本社会福祉学会秋季大会 9)日本公衆衛生学会総会

II 意識啓発および活動成果の普及活動【公益目的事業2】

意識啓発	当財団シンポジウムの開催 「定年退職後、第三の居場所とはー建築学と社会学から考えるー」(H22年11月) 社会老年学文献データベース(DiaL)の運営事業
刊行物	「Dia News」の発行 (N061~64号) 「財団新書」の発行 31.「定年退職後、第三の居場所とはー建築学と社会学から考えるー」

※当財団の刊行物として、上記の他に「活動報告書」(6月発行)がある

	平成23年度(2011年度)
--	----------------

I 調査・研究活動【公益目的事業1】

調査研究	健康問題	①「介護サービスの質と管理手法の研究」 1)「利用者モニタリングの有効活用に関する研究事業」 2)「介護における事故・ヒヤリハットの再発防止を支援するシステムに関する研究」 3)「サービス提供責任者の配置要件に関する調査・研究」 ②「介護予防政策の研究」 1)「介護予防事業のエビデンスを蓄積する共同研究」 2)「生きがい就業の介護予防効果に関する共同研究」 3)「介護予防事業評価システムの開発および調査・研究」 4)うつ予防プログラムの開発および効果検証事業 5)うつ予防応用プログラムの開発および効果検証事業 6)地域高齢者の精神的健康度および予後に関する縦断的研究 ③「介護従事者への教育プログラムの研究」 1)「港区介護サービス事業者管理者研修」 2)訪問介護職員のキャリアパス構築に向けた追跡調査 ④「有酸素運動を用いた元気高齢者づくりのためのエアロビック研究」
	生きがい問題	1)生きがい感・生きがい感尺度に関する研究 2)ダイヤ・アクティブエイジング・アソシエーション(DAA) 3)都市高齢者の社会関係周縁部に関する研究 4)中高年の交流媒体としての電子メールに関する研究 5)ICT(情報通信技術)を活用した高齢期の社会活動継続に関する研究
	国際比較	1)国際保健事業の長期評価のためのプレ調査研究
研究成果	研究論文	1「社会関係の研究において用いられている非親族との関係の指標：日本の高齢者を対象とした最近の量的実証研究のレビュー」, 老年社会科学, Vol. 33(1) : 47-59(2011). 2)「アセスメントデータを用いた居宅ケアの質の評価-HC-QIの活用-」, 老年社会科学, 2011. VOL. 33(3) : 484-489(2011) 3)「社会的孤立防止にむけた都市中高年者のICT利用に関する研究；テキストマイニングによるナラティブ・データの分析」, 駒澤社会学研究, No.43 : 81-104(2011). 4)「介護予防ボランティア登録者の活動への参加頻度に関連する要因」 老年学雑誌, 2011 ; 3 5)「都市のひとり暮らし後期高齢者における他者との日常的交流」, 老年社会科学, 34(1), 39-45(2012)
	報告書	1)厚生労働省老人保健健康増進等事業(平成23年度) 「サービス提供責任者の配置要件に関する調査研究」報告書
	学会発表	1)第25回日本地域福祉学会 2)第26回日本老年精神医学会 3)第53回日本老年社会科学大会 4)第10回日本ケアマネジメント学会研究大会 5) Second World Congress on Positive Psychology 6)第49回日本医療・病院管理学会学術総会 7) 第19回日本介護福祉学会大会 8)第29回日本都市社会学会大会 9)日本心理学会第75回大会 10)第59回日本社会福祉学会 秋季大会 11)第70回日本公衆衛生学会総会 12)アジア・オセアニア老年学会 13)全国生涯学習ネットワークフォーラム2011 14)第6回日本応用老年学会大会 15)第76回日本民族衛生学会総会 16) 第16回在宅ケア学会大会

II 意識啓発および活動成果の普及活動【公益目的事業2】

意識啓発	一般向けシンポジウムの開催：「はつらつとしたセカンドライフを送るために －高齢期のメンタルヘルス向上について－」(H23年9月)
	専門家向けフォーラムの開催：「根拠に基づくケアマネジメントの実現 －MDS方式からインターライ方式への発展－」(H23年11月)
刊行物	社会老年学文献データベース(DiaL)の運営事業
	「Dia News」の発行 (N065～68号) 「財団新書32」の発行：「はつらつとしたセカンドライフを送るために －高齢期のメンタルヘルス向上について－」(H24. 1. 31発行)

※当財団の刊行物として、上記の他に「活動報告書」(6月発行)がある

	平成24年度(2012年度)
--	----------------

I 調査・研究活動【公益目的事業1】

調査研究	健康問題	①「介護サービスの質と管理手法の研究」 1)「HC-QIによるケアサービスの質の評価研究」 2)「居宅介護サービスを利用する高齢者のアクティビティに関する調査研究」 3)「居宅介護支援事業所からみた訪問看護サービスのアウトカム評価研究」 4)「介護における事故・ヒヤリハットの再発防止を支援するシステムに関する研究事業」 ②「介護予防政策の研究」 1)「要介護高齢者の増加率低減を指標とした評価データベースの構築」 2)「生きがい就業の介護予防効果に関する共同研究事業」 3)「うつ予防応用プログラムの開発および効果検証事業」 4)「うつ予防プログラムの普及定着に向けたサポート事業」 5)「地域高齢者の精神的健康度の予後に関する縦断的研究」 ③「有酸素運動を用いた元気高齢者づくりのためのエアロビック研究」
	生きがい問題	1)「生きがい感・生きがい感尺度に関する研究」 2)「企業退職高齢者を対象にした「いきいき高齢者づくり」のモデル事業」 3)「都市高齢者の社会関係周縁部に関する研究」 4)「中高年の交流媒体としての電子メールに関する研究」 5)「ICT(情報通信技術)を活用した高齢期の社会活動継続に関する研究」
	国際比較	1)「国際保健事業の長期評価のための調査・研究」
	高齢社会と企業	1)「超高齢社会における従業員の働き方と企業の対応に関する調査」
	研究論文	1)「介護人材をどう確保するか；日本版キャリアパスの検証」病院, 第71巻9号平成24年9月 2)「都市のひとり暮らし後期高齢者における他者との日常的交流」老年社会科学, 34(1), 39-45(2012). 3)「ICTを活用した後期高齢における社会活動継続に関する研究」ジェントロジー研究報告, 10, 138-143(2012).
研究会発表	1)第54回日本老年社会学会大会(平成24年6月9日～10日、長野) 2)第27回日本老年精神医学会(平成24年6月21日～22日、埼玉) 3)第11回日本ケアマネジメント学会研究大会(平成24年7月14日～15日、広島) 4)第30回日本都市社会学会大会(平成24年9月8日～9日、東京) 5)第50回日本医療・院管理学会学術総会(平成24年10月18日～19日、東京) 6)第71回日本公衆衛生学会総会(平成24年10月24日～26日、山口) 7)第77回日本民族衛生学会総会(平成24年11月16日～17日、東京) 8)第17回日本在宅ケア学術総会(平成25年3月9日～10日、茨城)	

II 意識啓発および活動成果の普及活動【公益目的事業2】

意識啓発	ダイヤ財団設立20年記念シンポジウム：「シニアが拓くこれからの日本ー新しい退職後の生き方にチャレンジャー」(H24年11月15日)
	社会老年学文献データベース(<i>DiaL</i>)の運営事業
刊行物	「Dia News」の発行(N069～72号)
	「ダイヤ財団新書33(20周年特別号)」の発行：「シニアが拓くこれからの日本ー新しい退職後の生き方にチャレンジャー」(H24年3月31日発行)
その他	厚生労働省「第6回生涯現役社会の実現に向けた就労のあり方に関する検討会」の委員就任

※当財団の刊行物として、上記の他に「活動報告書」(6月発行)がある

平成25年度(2013年度)

I 調査・研究活動【公益目的事業1】

調査研究	健康問題	①「介護サービスの質と管理手法の研究」 1)「HC-QIによるケアサービスの質の評価研究」 2)「居宅介護サービスを利用する高齢者のアクティビティに関する研究」 3)「居宅介護支援事業所からみた訪問看護サービスのアウトカム評価研究」 ②「介護予防政策の研究」1)「介護予防評価に関する自治体共同研究」 2)「生きがい就業の介護予防効果に関する共同研究事業」 ③「高齢者の健康度に関する研究」 1)「うつ予防応用プログラムの開発および効果検証事業」 2)「うつ予防プログラムの普及定着に向けたサポート事業」 3)「地域高齢者の精神的健康度の予後に関する縦断的研究」 ④「有酸素運動を用いた元気高齢者づくりのためのエアロビック研究」
	生きがい問題	1)「生きがい感研究」 2)「企業退職高齢者を対象にした「いきいき高齢者づくり」のモデル事業」 3)「都市高齢者の社会関係周縁部に関する研究」 4)「中高齢の交流媒体としての電子メールに関する研究」 5)「ICT(情報通信技術)を活用した高齢期の社会活動継続に関する研究」 6)「杉並区健康長寿モニター事業」
	国際比較	1)「国際保健事業の長期評価のための調査研究」
	高齢社会と企業	1)「超高齢社会における従業員の働き方と企業の対応に関する調査」
研究成果	研究論文	1)「Regulating Long-Term Care Quality」(介護サービスの質の管理の国際比較)ケンブリッジ大学出版 2)「高齢者が電子メールを介して交流する非親族の特性」社会情報学(2014.第2巻3号、P.15-26) 3)「都市部の企業退職者の加齢の過程とインターネットの位置づけ;シニア情報生活アドバイザー資格取得者の語りから」応用老年学(2014.7号)
	学会発表	1)第55回日本老年社会学会大会(平成25年6月4日~6日、大阪) 2)第55回日本老年医学会学術集会(平成25年6月4日~8日、大阪) 3)第12回日本ケアマネジメント学会研究大会(平成25年6月4日~6日、大阪) 4)第20回国際老年学会(平成25年6月23日~27日、ソウル) 5)第3回ポジティブ心理学世界会議(平成25年6月27日~30日、ロサンゼルス) 6)第51回日本医療・病院管理学会学術総会(平成25年9月27日~28日、京都) 7)第72回日本公衆衛生学会総会(平成25年10月23日~25日、津) 8)第78回日本民族衛生学会総会(平成25年11月15日~16日、佐賀)

II 意識啓発および活動成果の普及活動【公益目的事業2】

意識啓発	一般向けシンポジウム:「都市コミュニティを救うシニアの力ープロダクティブ・エイジングの視点からー」(H25年11月12日)
	専門家向けシンポジウム:高齢期のうつ予防事業についてー「ハッピープログラム」の取組み(H25年9月5日)
	社会老年学文献データベース(DiaL)の運営事業
刊行物	「Dia News」の発行(N073~76号)
	「ダイヤ財団新書34」の発行:「都市コミュニティを救うシニアの力ープロダクティブ・エイジングの視点からー」(H26年3月24日発行)
その他	ダイヤ財団設立20周年記念事業の仕上げとして、ホームページを全面改訂し、「財団20年の歩み(チャート図)」等を掲載した。

※当財団の刊行物として、上記の他に「活動報告書」(6月発行)がある